

ホタテガイ養殖管理情報

中層（10～15m層）の水温が20℃を超えてきたので、 新貝および成貝の施設は水温の低い下層へ沈めましょう

1 海況

7月7～12日の各ブイの水温は図1のとおりで徐々に上昇しており、中層（10～15m層）でも20℃を超えるところが見られてきました。

2 養殖管理の注意点

ホタテガイ新貝および成貝は、20℃で成長が止まり、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱のエネルギーを使って生命を維持しますが、水温が高くなるほどエネルギーの消耗が激しくなり、最後はエネルギー不足でへい死します（図2-3）。

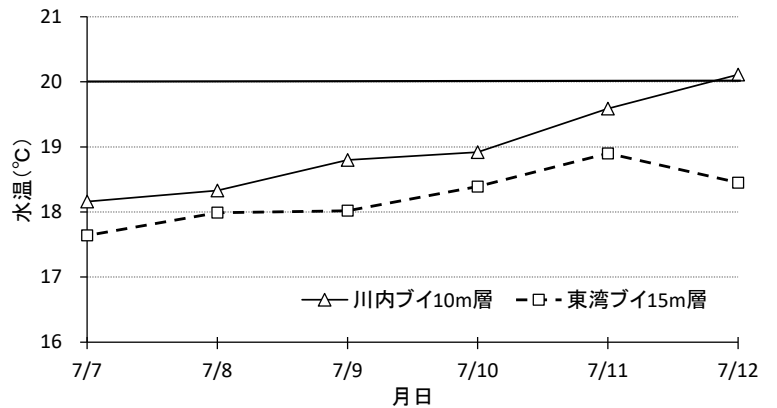
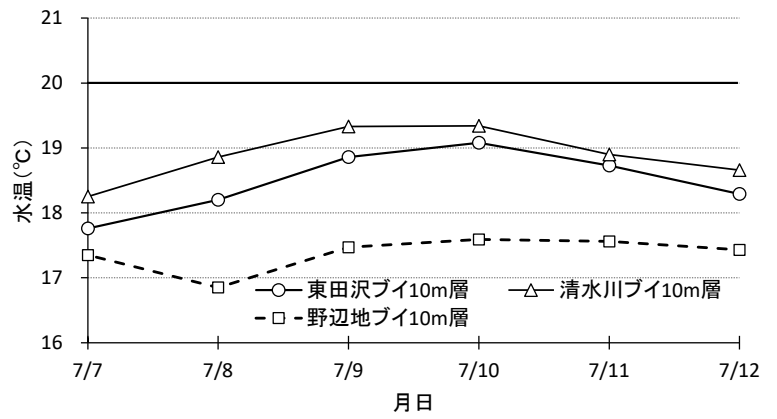
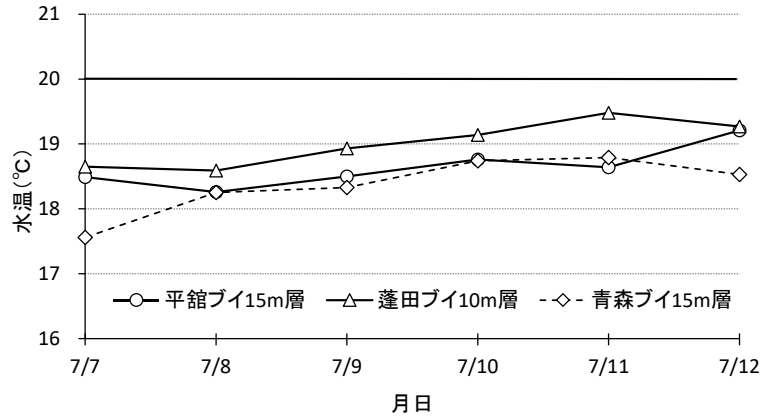


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

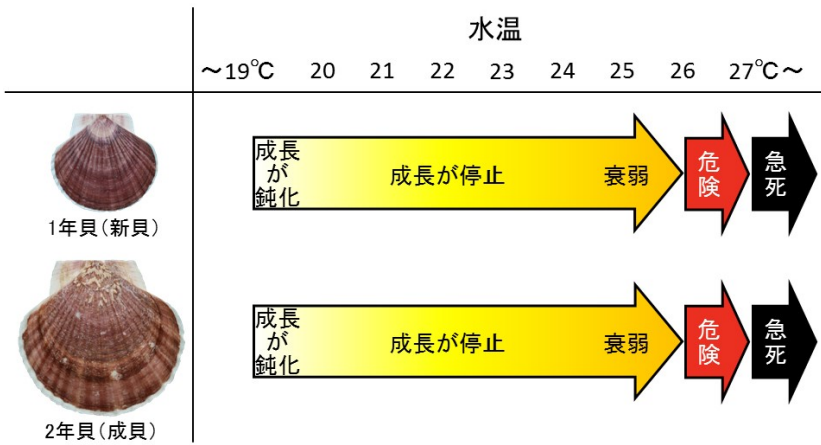


図2 新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

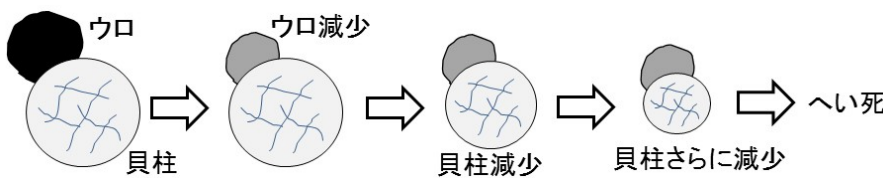


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

各地区で最も近いブイの中層水温が20℃を超えた場合（下記、海ナビ@あおもり）、新貝および成貝のうち、出荷する予定以外の貝は、施設をできるだけ水温の低い下層に沈めて安定させましょう。

また、異常貝はへい死しやすいことが分かっていますが、高水温時はへい死率がさらに高まります（図4）。

成貝向けに越夏する場合は異常貝率が低く、歩留りの良い貝を用いるようにしましょう。

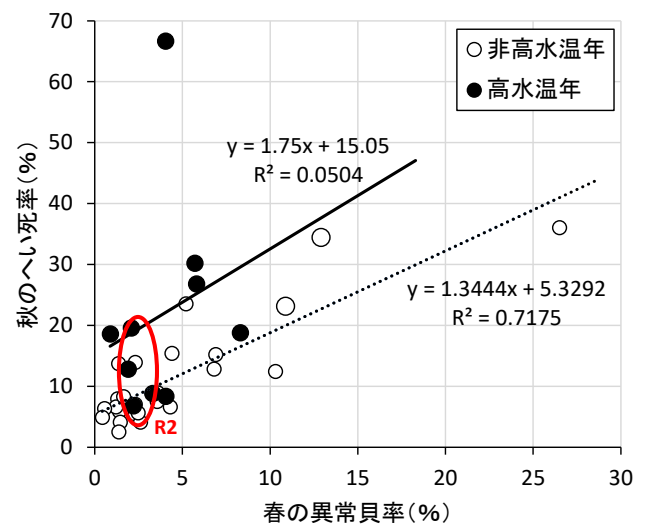


図4 養殖ホタテガイ実態調査における春の異常貝率と秋のへい死率（赤丸は令和2年の予想範囲）

